樫の木だより

2022 1/1
第 105 号

ひとり ひとり ひかる
きぼう

発行：樫の木福祉会（法人本部）
一宮市冨田字砂原 2147
Tel/Fax　0586-63-2111 / 61-1200
樫の木福祉会 ホームページ
http：www.kasinoki.jp/

牧歌の里
にんじん、おいしい？

彦根城へ！
ひこにゃんと一緒♫

レゴランドで
サンタさんと一緒！

川島河川環境楽
大きなさかなにびっくり！

岡崎寿々園グレープガーデン
みんなで収穫！

郡上大滝鍾乳洞で魚釣り♪
バッチリ釣れたよ！

ラグーナで
イルミネーション！

日帰り旅行に行ってきました！

　コロナ対策を充分に行い、今年も日帰り旅行を実施することができました。
普段と違う場所へ行き、たくさん楽しい思い出を作ってきました。

新年のごあいさつ

樫の木福祉会理事長　北川　登

明けましておめでとうございます。

昨年は、一昨年に引き続き「新型コロナウイルス感染症」対策で明け暮れた１年でした。地域の感染状況が悪化するたびに、各事業所職員や利用者の家族の方々へ感染防止対策の協力を呼びかけました。関係各位のご協力により、樫の木福祉会からクラスターを発生させることなく新年を迎えることができました。改めて厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染者数も昨年９月ごろから減少傾向となり、10月下旬ごろからは一宮市においても感染者数がゼロの日が記録されるようになりました。専門家の意見によれば感染拡大の「第６波」がきっと襲ってくるとのことですが、今の状態がこれからも安定して続くことを願ってやみません。

このような情況下ではありますが、昨年度に引き続き法人の主な行事を開催できず誠に残念に思っています。また、利用者をはじめ、地域の方々にも申し訳なく思っております。そんな中でも、１１月にやっとの思いで、事業所ごとに「日帰り旅行」を実施することができました。行き先、実施方法などを創意工夫し、細心の注意を払っての実施でした。でも、感染症防止対策による行動抑制された閉鎖的な環境での暮らしが続く中での、唯一解放感を味わう楽しいひと時であったと思います。

さて、国では昨年暮れに新内閣が発足し、コロナ禍で打撃を受けた個人や事業者向けの救済を柱とする経済対策を講じた補正予算が編成されました。その中に、保育士や幼稚園教諭、介護、障害者福祉施設の職員の賃金を引き上げることが示されました。障害者福祉法人の職員にとっては、喜ばしい政策であります。また、法人にとっても、法人職員の確保に苦労をしている現状の打開につながるものと期待を寄せています。一方で、社会福祉法人の収入源は、国民や市民の方々が納められた税金であり、他の収入源はありません。福祉事業をどんなに充実させたとしても、決められた報酬単価のルールにより収入が決まります。報酬単価の十分な改善がなされない限り、賃金の引き上げの実施にも人材確保の課題解消にもつながらないのです。社会福祉法人の運営は、樫の木福祉会のみならず、どこの法人も財政的に苦しんでいる状況に大差はありません。老朽化した施設の改築予算が工面できなくて、資金の借入による自転車操業をせざるをえない状況が現状です。国が進めようとしている職員の賃金引き上げ政策が、社会福祉法人の安定経営に資する制度改革につながるよう願っています。このことは、樫の木福祉会を支えていただいている方々や応援していただいている方々の力強い後押しが必要です。関係各位のご支援を切にお願いいたします。

一方、コロナ禍の昨年、一昨年を振り返り、いろいろなことに気づくことができました。よく耳にする言葉が、『リモート』であります。仕事をするのに通勤することなく自宅で仕事をする。学生が大学や学校に通学することなく自宅にてオンラインで受講する。あるいは、本来一堂に会しての会議を、オンラインでパソコン画面の映像に向かって意見交換をする。これらは、コロナ禍以前の生活にはなかった行動様式です。『対面』でするコミュニケーションと『リモート』でするコミュニケーションの功罪についてとても気がかりになってきました。

『リモート』対話については、迅速に物事を伝えることができ、対面に要する時間の節約という利便性があります。

『対面』対話においては、細やかな感情、心情の交換ができ、繰り返し対話がしやすく意思疎通が図りや

すいなど、親密な対話ができます。

残念ながら、『対面』対話を『リモート』対話に置き換えることはできないと思います。ある新聞記事に目が留まりました。

「あこがれの大学に入学ができ、期待に胸をふくらませていました。待ちに待った授業が始まりました。でも、ほとんどがリモート講座となり、来る日も来る日もパソコン画面を眺めての受講。友達と語り合う楽しみも、友達から学ぶ機会も失い、あこがれの大学生活の夢がかき消されてしまった。学ぶ意欲も失い、大学を退学することにしました。」

この記事を読み、大きな衝撃を受けたことを今も鮮明に覚えています。要は、『リモート』対話を『対面』対話で補うことができても、その逆は不可能という事です。私たちの生活は、『対面』の対話を重視した生活こそが、穏やかで心豊かな生活できるものと信じています。

障害者福祉事業は、利用者が自ら障害を乗り越え、自立した生活ができるようになりたいという意欲や向上心に寄り添い、利用者の夢の実現に向け支援する事業です。これから社会に出てくる若者に、『リモート』対話の生活環境で育った人が増えれば、ますます障害者福祉事業の人材不足が増大する心配があります。また、現在、障害者福祉事業に就いている人についても、『リモート』対話の生活環境に慣れてしまうことにより、障害者福祉事業の質の向上につながらない心配があります。

本年こそ、コロナ禍の生活環境から完全に抜け出せるよう、関係各位のご支援をいただきながら、樫の木福祉会の組織を上げて努力してまいります。

本年も、引き続きご支援賜りますようお願いし、年頭のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

かしの木の会会長 小杉 ひふみ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中、本会の活動に対しまして並々ならぬご支援並びにご理解賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年７月、８月には、半世紀ぶりとも言える東京オリンピック、パラリンピックが、コロナ禍で開催されました。多くの選手の方々のご活躍等をテレビでの視聴ではありますが、リアルタイムで視る事が出来るといった貴重さをも体験できるひと時であったと感じ入りました。

また、新型コロナウイルス感染症感染状況においても、10月以降11月、12月に入りましても収束とも思えるほど感染者数が減少の一途を辿り、感染防止対策を施しながらではありますが、日常を取り戻しつつあるように思われる日々が続いております。

本会では、感染が落ち着いている状況の中、次の感染拡大への備えとして、樫の木福祉会 各事業所様に対し、新型コロナウイルス感染症対策用品代の寄附を実施致しました。

海外では、急激な感染拡大等が起こっており、他人事とは思えず、まだまだ予断を許さない状況なのではと気を引き締め、本会も活動の在り方を模索して参る所存です。

本格的な活動が難しい中、リモートによる会議等活動の道を探りながらの運営とはなりますが、ご理解ご支援の程、お願い申し上げます。

皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症感染防止を念頭に、御自愛くださいますようお願い申し上げます。

法人コーナー①

～日帰り旅行に行ってきました～

かしの木の里「牧歌の里」「オレンジパーク」
日時：10月20日(水)、11月5日(金)・10日(水)

昨年度より流行していた新型コロナウィルスの影響もあり、今年度も事前に計画していたテーマパークなどの屋内娯楽施設なども、感染対策防止の中で見送らざるを得ない状況のなか、密を避けられる屋外施設の「ひるがの高原　牧歌の里」に２つの班、「オレンジパーク」に１つの班と日を分けていくことで、無事に旅行を実施できる運びとなりました。どの班も天候に恵まれ、過ごしやすい気候の中で利用者さん、引率した職員が有意義に過ごすことができました。

「ひるがの高原　牧歌の里」では大自然の心地よい空気や広大な敷地内での動物との触れ合いを存分に満喫し、利用者さんの沢山の笑顔や楽しまれている様子をうかがうことができました。

「オレンジパーク」では旬を迎えたみかん畑でみかん狩りを行いました。旬の味覚を利用者さん、職員共に堪能され、沢山の笑顔もみられました。

今年度の旅行を無事終えることが出来ました。今回の旅行での反省点を基に、来年度もより皆さんが有意義に過ごすことが出来る様な旅行を計画・実施していきたいと思います。

かしの木の里　佐藤　栄厚

樫の木作業所　「郡上八幡の旅」
日時：10月28日(木)、11月8日(月)

今年も利用者さんが楽しみにされている日帰り旅行のシーズンとなりました。作業所では４班に分かれて郡上八幡に出掛けました。

バスの車内では、カラオケをやれると楽しみにされていた方もみえましたが、新型コロナウィルスの影響で残念ながら出来ませんでした。

大滝鐘乳洞では、普段なかなか体験できない魚釣りをしました。魚が竿を引く感触を味わったり、何とか「釣りたい」という強い気持ちで、何度も挑戦しようとする姿が見られました。実際に１匹釣り上げた利用者さんはとても自慢げにされていました。

城下町散策では、抹茶やいちごなど自分の好きなソフトクリームを食べる方、ちょっとリッチに飛騨牛の串焼きを堪能する方、五平餅やジュースを楽しむ方など、それぞれ満喫されていました。

食品サンプルのタルト作りは、係の人の説明を聞きながらタルトの上にのせたいものを選びました。
ボンドを機械で絞る際、硬くて苦戦する方もみえましたが係の方が手を添えながら一緒に行ってくれました。
果物をのせる際は、「どこに置こう」などと考えながら自分だけのキーホルダーが作れて満足そうな表情がたくさんの方からみられました。他にもパフェやお寿司などのサンプルキーホルダーがあり、思わず本物だと思い手にした方やお土産にされた方もいました。

マスクをつけての旅行でしたが、個々に楽しまれ最高の思い出になったことと思います。

樫の木作業所　今枝　友梨

らでうす「レゴランド」
日時：11 月 15 日(月)　・19 日(金)

今年度は、作業室ごとで「レゴランド・ジャパン」に行きました。2 か月前に旅行についての手紙を渡した頃からみなさん期待を膨らませ、「旅行に行くよ」と言ったり、「アイスクリーム（あるの？）」と尋ねたりする利用者さんもみえました。また作業室にレゴランドの雑誌を用意し、休憩時間に職員と一緒に読んだりして行く前から一緒に楽しみました。

旅行当日は新型コロナウイルス感染防止のため、車内でのカラオケや飲食は禁止と伝えられ、残念そうな表情をしている利用者さんが見られました。車内では「ジェットコースター乗ろうね」等レゴランドについての話をして楽しく過ごしました。

昼食後はレゴランド内を満喫し、様々なアトラクションに乗りました。途中で、絶叫系に乗るグループと景色を楽しむグループで別行動を行いました。絶叫系に乗るグループで行動した利用者さんは「こわいこわい」と言いながら乗られていましたが、終わった後は「楽しかった」と言われ、職員も思わず笑ってしまいました。景色を楽しむグループは緩やかな乗り物に乗ったり、様々なオブジェクトと写真を撮るなど楽しく過ごしました。

お土産を選ぶ際には、何買う？と聞くと即答で「お菓子！」と言われる利用者さんがいました。お菓子の種類が３つあったので職員と一緒に選び、自分の食べたいものを買われていました。

初めての日帰り旅行で、利用者さんがどのような動きをされるのか不安でしたが、みなさん落ち着いて旅行を楽しめたのではないかと思います。アトラクションで楽しんだり、レゴランド内の景色を見て楽しんだりと各々充実した日帰り旅行になったのではないかと感じました。

らでうす　川口　千尋

法人コーナー②

らちぇっと　「誕生日会」

「らちぇっと」は利用者さんお一人お一人に寄り添う支援を行っております。

今回は、９月に行われた調理実習の１日を紹介します。

「らちぇっと」では、利用者さんが来られる前に職員が清掃、薬の準備や静養スペースの準備等を行います。それと並行して利用者さんを迎えに行きます。来所された方から健康チェックを実施し、その後ご本人のペースに合わせて水分提供を行い、朝の会となります。朝の会では、皆さんのご自宅での様子や体調の変化、利用者さんに積極的に声を出していただけるようにお一人お一人に寄り添って実施しています。

朝の会が終わると、トイレへの誘導や介助を行い、その後午前中の活動になります。

活動内容は、午前は皆さんが参加できるレクリエーションや自主製品作成等の作業を行い、午後からはリハビリなど身体機能維持や向上ができる活動を行っています。

午後の活動を終えると、おやつを提供し、その後排泄支援となります。そして排泄支援が終了すると、帰りの準備として支援ノートの記入、持ちもの確認、体調の確認を行います。後は帰られる時間によって誘導を行います。ご利用者さんが全員帰宅された後は、職員が協力し、清掃、明日の準備や本日ご利用されたご利用者さんの特記事項や出来事を職員が話し合います。

今回の誕生日会は、バケツプリンを作成 しました。固まるまでに時間がかかるため前日に実施しました。普段は、誕生日会当日の午前中に職員と利用者さんとで作業を分担し、助け合いながら調理を楽しみます。調理実習中は、職員が「美味しくできるといいですね。」との声に「できあがりが楽しみ。」や普段と違う表情でお返事をいただいたり、高い声で表現して下さいます。利用者さんの特性に合わせ、職員と共に一つの物を作るという作業を通じて達成感や楽しみを増やすことを目的として実施しております。また、職員と利用者さんが交流し、より信頼関係を深めより良い支援ができるようにと考えております。

そして誕生日会当日できあがったプリンをバケツからお皿に移す作業を利用者さんに見ていただきました。最初は不安そうな表情や声を出されていましたが、プリンが皿に盛られるとその瞬間、とても良い表情に変化し、大きな声を出され、職員の「大成功ですね。食べるのが楽しみですね。」との声に一つの事を皆で取り組み成功したという達成感が感じられる表情や声が聞かれました。バケツプリンを分けて皆さんと一緒に食べました。

今年度も、コロナウィルスの影響で大きなイベントや行事はなかなかできない状況ですが、その日利用して下さった利用者さんお一人お一人に寄り添い、ご自分のペースで過ごせるような環境作り、その人に合った支援を模索していきたいと思います。

らちぇっと　加藤　陽市

法人コーナー③

職員面談を通して思うこと

～「知識」をよりどころに、「感性」を命綱に～

職員たちとの面談が始まり、管理者である自分は、どうして福祉の道を選んだのだろうとあらためて考えてみる。理由はもちろん複数あるので、今となってはどれでもよいし、思い出せない理由もたくさんあるがもしかすると人の心に寄り添える人になりたいと思っていたのも理由のひとつかもしれない。

若い頃から、自分の思うようにならずに、悩んだり苦しんだりした経験もそこそこあって、今思えばたいしたことではないようなことも、今もなお引きずってしまうようなこともあれこれ。その躓きの大半はいつも人間関係。

そんな頃から、悩みなんて自分の気持ちを優先させるより、人の気持ちに合わせた方がうまくいくようだって、なんとなく感じていて、もしかしたら、自分は福祉の仕事をすることで、人にうまく合わせることのできる人間になりたいと思っていたのかも知れない。

自分の状況を上手に語ることのできない障害のある人たちの支援の現場で働くようになって、利用者さんとの関係を築くにも、ご家族との信頼関係を築くにもその考えは必要なものだった。いつも相手の人を感じようとする力をフル活用していると、そのことはだんだんと知識より役に立つことのように感じていった。

ところが、このやり方には難点があった。自分が、なんとなく感じてうまくいったことを誰かに伝えていくには、自分が感じるだけでは伝わらない。その時に感じたことを自分だけがわかっても他の人にはわからないままなのだ。

なんとなく感じてうまくいった方法を、言葉にしてきちんと説明することができれば、次の支援にいかすこともできるし、他の人たちにいかすこともできるのだが、わかりやすい言葉で正しく説明することができなければ、伝わらないし応用もきかない。

昔の職人の世界はこんな感じだったのかもしれないが、「なんとなくうまくいった」の繰り返しではなく、成功にも失敗にも説明ができるようになれば、それが根拠となって、成功を増やして失敗を減らすことになるのではないか。そう考えると、頼りになるのは「知識」だった。

自分が経験してきた世界だけでは想像も及ばない行動をする人のことを感性だけで理解するのは難しい。障害特性の知識から考えると「この音が不快なのではないだろうか」「この先の予定のことが理解できずに不安になっているのではないか」と心あたることがいくつも出てくる。このことは知識がなければたどりつけない。

障害福祉の仕事というのは、相手を理解しようとすることから始まるので、理解するための知識はできるだけあったほうがいい。そのための時間は無理をしてでも作らないと、先には進めない。

ところが、どうしても知識だけでは解決できないことにぶつかることも多い。その人たちが経験してきた大変な歴史であったり、幼少期の苦しかった体験が、説明できない行動につながっていたりする。そういった時に力を発揮するのは知識よりも感性であったりもする。

つまり、私たちの仕事は、自分の身体や心を仕事の道具にして人の支えになろうという仕事なので、知識も感性も両方大事な商売道具。そういう意味では、知識を増やして専門性を高めることも、自分の心と向き合い続けて感性を磨いていくことも仕事のうちということになる。

「何か」が原因で不思議な行動をとってしまう人を、きっとこうなのだろうと感じたときに、すぐにわかった気にならず、蓄積した知識の中から「何か」の正体をつきとめ、その知識と感覚をもとに、誰にでも説明できる根拠を探す。右脳と左脳をバランスよく使って相手を理解する、そんなイメージ。このバランスのおかげで、人に伝えやすくなったし、共有もできるようになった。成功も失敗も、経験として積み上がるようになってきた気もする。

障害福祉の仕事に「絶対」はない。唯一の「正解」もない。だからこそ、常に迷い、試行錯誤を繰り返す。それが障害福祉の仕事のやりがいであり醍醐味。職員たちに感じてほしい一番のこと。感性と知識の両方に磨きをかけて、生きづらさを抱える人たちのことを一生懸命理解しようとする職員が、一人でも多く育ってくれると未来は明るい。職員面談を通して、職員たちに伝えていかなければと強く感じる。

（かしの木の里施設長　野崎　貴詞）

かしの木の会コーナー

新型コロナウイルス感染症対策用品代の寄附
～実施に至った想いとは～

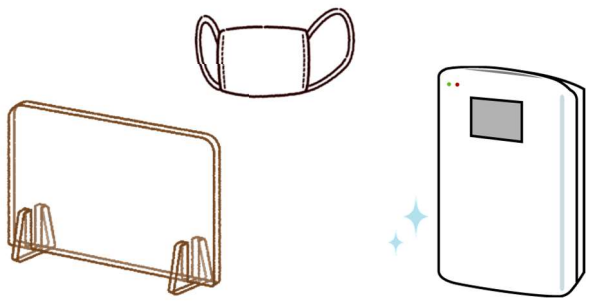
本年度につきましても、会員の皆様の多くの賛同を得て、樫の木福祉会の各事業所に対し、昨年同様新型コロナウイルス感染症対策用品代の寄附を行いました。

新型コロナウイルス感染症対策用品代の寄附をと考えた理由やその想いとは何だったのか。
昨年の夏頃、その年の４月末頃に公開された千葉県の障害者福祉施設でのクラスター対応に関するZoom 会議の動画を見た事がきっかけとなりました。
この施設の方々は東日本大震災での液状化被害や、令和元年の台風による何日にも亘る大停電といった被害を経験し、利用者さん自身が限定された生活を送る体験をしていた事や１年分の衛生用品等の備蓄を行うようにしていた事、大学教授等、協力体制を構築していた事等が功を奏し、難局を切り抜けられた事が語られていました。その Zoom 会議をお聞きする中、「では、保護者として、本会として、この災害とも呼べる感染症拡大に対し、何が出来るのだろう。」と考えるようになりました。

そんな頃、運営委員会でも「会として何か出来ることはないか。」との意見が役員の方から出ていました。
そこで、いつ来るともしれない大きな感染の波への対策に寄与する事となるのではと考え、「新型コロナウイルス感染症対策用品代の寄附」を行うという提案を致しました。何が必要なのかの判断は各事業所の管理者さんにお願いしました。現場の皆様が必要とするものをお届けできればとの一心から。

この場をお借りして、多くの賛同を寄せて頂いた会員の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。
新型コロナウイルス感染症感染防止を念頭に、皆様には御自愛くださいますようお願い申し上げます。

かしの木の会 小杉 ひふみ



スタッフ募集
～貴方のお時間を輝かせてみませんか～

現在、樫の木福祉会で働いて下さる人を募集しております。特にグループホームで働いていただける方を探しておりますが、その他の事業所でも募集しておりますので、お力をお貸しいただける方がいらっしゃいましたら、お気軽に下記の連絡先までお電話下さい。

基本的な勤務条件
時給 1,000 円～
通勤手当支給有（法人規程による）

勤務の内容及び条件の詳細については、直接お伝えしご相談させていただければ、と考えております。

＜連絡先＞
（福）樫の木福祉会　法人本部
一宮市冨田字砂原２１４７
電話：0586-63-2111
（8:30～17:30　日祝除く）

行事中止のご案内

法人が、新春一番最初に行う行事「樫の木交流会」ですが、まだコロナ禍を完全に脱したとは言えない状況ですので、中止とさせていただくことになりました。

編集後記

令和３年度も、残すところ３か月となりました。今年度を振り返ってみると、前年度と同じくコロナウイルスに振り回された年でした。
毎年、行われてきた行事を、規模を縮小するなど工夫して事業所内で行ったことをお伝え出来て良かったと思います。

広報委員会